

3 子どもの健康と安全

健康・医療



乳幼児健康診査は、お子さんの心身の健康を確認する大切な健診です。

また、予防接種も重い感染症から子どもを守る大事なものです。市から対象の家庭にご案内するお知らせや広報さんじょう、ホームページをチェックして忘れずに受けましょう。

①乳幼児健康診査を受けましょう

乳幼児健康診査

1か月児から3歳児までの乳幼児健康診査を行っています。対象月齢になったら、忘れずに受診しましょう。

〈案内方法〉個別通知でご案内します。なお、ホームページでも日時等をご確認いただけます。➡

〈会場〉三条市総合福祉センター

〈問合せ〉子ども家庭サポートセンター ☎45-1114



●乳幼児健康診査一覧

〈会場〉三条市総合福祉センター

健診名	対象月齢	内容
乳児一般健康診査 (1か月児健康診査) ※医療機関で受診してください	1か月児	診察、身体計測等
3か月児健康診査	4か月児	問診、身体計測、診察、結果説明及び健康相談、栄養相談(必要者及び希望者)
乳児一般健康診査 (7か月児健康診査) ※医療機関で受診してください	7か月児	診察、身体計測等
1歳6か月児健康診査・ 歯科健康診査	1歳7か月児	問診、身体計測、診察、歯科健診、歯科保健指導、フッ化物塗布(希望者)、結果説明及び健康相談、栄養相談(必要者及び希望者)、心理相談員による相談(必要者及び希望者)
2歳児歯科健康診査	2歳児	問診、歯科健診、歯科保健指導、フッ化物塗布(希望者)、健康相談(必要者及び希望者)、栄養相談(必要者及び希望者)
2歳6か月児歯科健康診査	2歳6か月児	問診、歯科健診、歯科保健指導、フッ化物塗布(希望者)、健康相談(必要者及び希望者)、栄養相談(必要者及び希望者)
3歳児健康診査・歯科健康診査	3歳1か月児	屈折検査、尿検査、問診、身体計測、診察、歯科健診、歯科保健指導、フッ化物塗布(希望者)、結果説明及び健康相談、栄養相談(必要者及び希望者)
転入児健康診査・歯科健康診査	3歳児健診以降に 三条市へ転入された児	問診、身体計測、診察、歯科健診、歯科保健指導、結果説明及び健康相談(必要者及び希望者)、栄養相談(必要者及び希望者)

②予防接種を受けましょう

予防接種の受け方

市が委託している医療機関へ事前に予約をして、接種します。

〈対象者〉P11「定期予防接種の種類と対象一覧」参照

〈案内方法〉乳幼児の予防接種については、生後2か月を迎えるお子さんの家庭に予防接種の予診票・受診券を送付します。
学童の予防接種については、当該年度の初めに対象児童の家庭にご案内します。

〈注意事項〉・接種日、接種時間は医療機関によって異なりますので、あらかじめ医療機関にお問い合わせください。
・県内の委託医療機関であれば、市外でも無料で受けられます。ただし、一部対象にならない医療機関もありますので、市外で接種をされる場合は、医療機関に事前に確認をしてください。
・里帰り出産等の理由で県外での接種を希望する場合は、事前に子ども家庭サポートセンターへ手続きをお願いします。かかった費用の一部を助成します。

〈問合せ〉子ども家庭サポートセンター ☎45-1114

定期予防接種(無料)の種類と対象一覧

ワクチンには、生ワクチンと不活化ワクチンがあります。

・異なる種類の注射の生ワクチンを接種する場合は、次の接種までの間隔を27日以上あけましょう。

・同じ種類のワクチンの接種を複数回受ける場合は、ワクチンごとに決められた間隔を守りましょう。

種類	ワクチン名		定期接種対象年齢	標準的な接種期間(望ましい期間)と接種方法
不活化ワクチン	B型肝炎		1歳未満	1回目:生後2か月以降 2回目:1回目の接種から27日以上の間隔をあけて1回 3回目:1回目の接種から139日以上の間隔をあけて1回
生ワクチン(経口)	ロタウイルス	1価ワクチン	生後6週～ 生後24週0日まで	生後2か月から27日以上の間隔をおいて2回接種(初回は生後2か月～14週6日(約3か月10日)までの間に接種)
		5価ワクチン	生後6週～ 生後32週0日まで	生後2か月から27日以上の間隔をおいて3回接種(初回は生後2か月～14週6日(約3か月10日)までの間に接種)
不活化ワクチン	小児用肺炎球菌		生後2か月～ 5歳未満	【初回接種開始:生後2か月～7か月未満の場合】 初回接種:27日以上あけて3回接種(生後12か月までに完了) 追加接種:生後12か月～15か月未満で、初回の3回目から60日以上あけて1回接種(生後12か月に至った日以降)
不活化ワクチン	五種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ)	1期初回	生後2か月～ 7歳6か月未満	生後2か月～7か月の間に、それぞれ20～56日までの間隔で3回接種
		1期追加		1期初回3回目接種終了後6か月～18か月までの間に1回接種
不活化ワクチン	四種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ)	1期初回	生後2か月～ 7歳6か月未満	生後2か月～12か月の間に、それぞれ20～56日までの間隔で3回接種
		1期追加		1期初回3回目接種終了後12か月～18か月までの間に1回接種
不活化ワクチン	ヒブ		生後2か月～ 5歳未満	【初回接種開始:生後2か月～7か月未満の場合】 初回接種:27日～56日までの間隔で3回接種 追加接種:初回接種終了後7か月～13か月の間に1回接種
生ワクチン	BCG		1歳未満	生後5か月～8か月に達するまでの間に1回接種
生ワクチン	麻しん・風しん混合	1期	1歳～2歳未満	1歳になったら早めに1回接種
		2期	小学校就学前の 年長児	1回接種
生ワクチン	水痘		1歳～3歳未満	初回接種:生後12か月～15か月に至るまでに1回 追加接種:初回接種終了後6か月～12か月に至るまでの間隔をおいて1回
不活化ワクチン	日本脳炎	1期初回	生後6か月～ 7歳6か月未満	3歳になったら、6日～28日までの間隔で2回接種
		1期追加		1期初回接種終了後、おおむね1年の間隔をおいて1回接種
		2期	9歳～13歳未満	小学4年生の間に1回接種
不活化ワクチン	二種混合 (ジフテリア・破傷風)		11歳～13歳未満	小学6年生の間に1回接種
不活化ワクチン	子宮頸がん予防 ※原則、同一種類の ワクチンを3回 接種	2価 ワクチン	小6～高1相当の女子	中1の間に3回接種 2回目:1回目の接種から1か月後 3回目:1回目の接種から6か月後
		4価 ワクチン		中1の間に3回接種 2回目:1回目の接種から2か月後 3回目:1回目の接種から6か月後
		9価 ワクチン		中1の間に2回(1回目を15歳未満で接種した方)または3回接種 2回目:1回目の接種から2か月後 3回目:1回目の接種から6か月後 ※2回接種で完了する場合は6か月の間隔をあける

※ヒブワクチン、小児用肺炎球菌については、初回接種開始年齢が生後7か月以上の場合、開始年齢によって接種回数が変わります。詳しくは、個別案内通知をご確認ください。

※定期接種対象年齢外での接種は任意接種となり、有料(自己負担)となります。

※複数回接種が必要な予防接種は、標準的な接種間隔が決まっています。

※長年に渡る疾病等のため、定期予防接種を受けることができなかった方について、対象年齢を過ぎても定期予防接種として接種できる場合があります。詳しくは問合せ先へご相談ください。

※骨髄移植等により再度の予防接種が必要と医師に判断され、任意で再予防接種を受ける場合は、事前に子ども家庭サポートセンターへ手続をお願いします。かかった費用の一部を助成します。

〈 問 合 せ 〉 子ども家庭サポートセンター ☎45-1114

任意予防接種の助成

インフルエンザ予防接種費用助成

子育て中の世帯に対し、インフルエンザ予防接種を受けることによる経済的負担を軽減するとともに、インフルエンザの発症や合併症を予防するため、インフルエンザ予防接種に係る接種費用の一部を助成します。

〈対象者〉次の要件をすべて満たす方

- ①予防接種の接種日において、市内にお住まいの方
- ②予防接種の接種日において、生後6か月～18歳となる年度(高校3年生相当)までの方

〈助成回数〉生後6か月以上～13歳未満:2回
13歳以上～18歳となる年度(高校3年生相当)まで:1回

〈助成額〉1回あたり2,000円まで助成

〈助成期間〉毎年10月1日～3月31日(助成金の申請期間は、予防接種を受けた日の属する年度の末日まで)

〈問合せ〉子ども家庭サポートセンター ☎45-1114

③子どもの具合が急に悪くなったら

夜間・休日の応急診療

夜間や休日に応急的な処置を受けることができます。

〈施設名称〉県央医師会応急診療所

〈施設位置〉三条市興野1-13-67 三条地域振興局隣

〈受付時間〉夜間(通年) 19:00～21:30

休日(日曜・祝日・年末年始・お盆)

9:00～12:00/13:00～16:30

〈診療時間〉夜間(通年) 19:30～

休日(日曜・祝日・年末年始・お盆) 9:30～/13:30～

※年末年始:12月31日～1月3日、お盆

〈診療科目〉内科、小児科、外科、整形外科

〈必要なもの〉加入保険情報が分かる書類、各種医療費助成受給者証

〈問合せ〉県央医師会応急診療所 ☎32-0909

三条市医師会 ☎32-6058

休日救急当番医(見附地域)

医療機関の休みの日に急な発熱や腹痛などになったときは、休日救急当番医をご利用ください。

〈診療機関〉広報さんじょう各月「救急診療」をご確認ください。

〈診療時間〉9:00～11:30/13:00～16:30

〈必要なもの〉加入保険情報が分かる書類、各種医療費助成受給者証

〈問合せ〉健康づくり課 健診係 ☎34-5443

県の小児救急医療電話相談をご活用ください！

夜間に、子どもが急に病気になって、どうしたらいいかわからない場合は、県の小児救急医療電話相談へお問い合わせください。

〈相談日時〉毎日18:00～翌朝8:00

〈相談費用〉無料

〈問合せ〉☎025-288-2525 ※携帯電話で、＃8000と押してもつながります。

気軽に相談できる「かかりつけ医」を見つけておこう！

突然の病気にあわてないために、かかりつけ医は「病気になる前」に見つけておくのがベスト。

かかりつけ医で重要なことは、保護者との相性です。近所の評判や口コミも参考にはなりますが、最後は保護者自身が「このお医者さんは信頼できる。」と感じられるかどうか重要です。

医者と患者の間に信頼関係が築けなければ、よりよい治療はできません。

また、保護者が信頼できる医師になら、ちょっとした病気や育児の心配なども気軽に相談できるなどのメリットがあります。

TAKUHAI

献立に悩まない5日間も 体験してみませんか?

初めての方
限定

使う分だけ切ってお届け!片付けまでラクラク♪

おひとりさま
1食あたり
300 (税込) 円

2品
調理

調理時間

10~15分

お試し5days

カット ミール
Cut Meal

2人用 × 5日間(月~金)

約 ~~6,000~~ 円

3,000 円 (税込)

3人用・5日間 **4,500** 円 (税込) | 4人用・5日間 **6,000** 円 (税込) | 配達料無料

■お申し込み方法:

右記QRコードからアクセスしていただくかお電話ください。

0120-377-714

株式会社オーシャンシステム 宅配事業部 新潟支店

〒955-0845 新潟県三条市西本成寺2-26-55 TEL.0256-33-3000 FAX.0256-35-2583 <https://www.ocean-yoshikei.com/>



ネットからの
お申し込みは
コチラ!

熱が出た

赤ちゃんの様子

- ① 顔色が悪い
 - ② ぐったりしている
 - ③ 嘔吐・下痢
 - ④ 意識がもうろうとしている
 - ⑤ 息が苦しそう
 - ⑥ 尿がいつもより少ない
- などを確認します。



対策や注意

赤ちゃんの様子を総合的に判断して受診を検討しましょう。赤ちゃんの平熱は大人より高めで、37度以上のこともあります。37.5度以上の熱があったときは、洋服を着せすぎているかなどを確認・調節し、再度測ってみましょう。40度以上の高熱や、3か月未満の赤ちゃんで38度以上あるときには診療時間外でも受診しましょう。

便秘になった

赤ちゃんの様子

- ① 便が硬くて出にくい・肛門が切れる
 - ② 便が出ない日が続いていて、食欲もない
- などを確認します。



対策や注意

上記のような場合には受診を検討しましょう。いつもより排便の間隔が空いている場合には、綿棒で肛門を刺激して排便を促してみましょう。排便が数日に1回でも出ていて、機嫌、食欲、顔色、活気が普段通りであれば様子を見ましょう。

吐いた

赤ちゃんの様子

- ① 飲んでもすぐに吐く
 - ② 発熱
 - ③ 下痢を伴っている
 - ④ 頭を強く打った後に嘔吐した
 - ⑤ 定期的に激しく泣く
- などを確認します。



対策や注意

嘔吐以外に上記のような症状もある場合や、何回も吐く場合は受診しましょう。それ以外の症状がないか、嘔吐の症状が軽い場合は様子を見ましょう。顔や体を横に向け、吐いた物で気管を詰まらせないように注意してください。

下痢をした

赤ちゃんの様子

- ① 嘔吐を伴っている
- ② 飲んでもすぐに吐く
- ③ 発熱 ④ 発疹
- ⑤ 定期的に激しく泣く
- ⑥ 便の状態(血便、真っ黒い便、母子健康手帳の便色カードの1～3番に近い色の便)などを確認します。



対策や注意

におい、性状、回数などいつもと違う点を観察し一時的なものかどうか注意して見るようにしましょう。とくに上のような便色の異常がみられる時は早めに受診しましょう。下痢が続くと脱水症状を引き起こすこともあります。こまめに水分をとらせるよう心がけましょう。

咳が出た

赤ちゃんの様子

- ①発熱
 - ②呼吸が苦しそう
 - ③食欲がない
 - ④機嫌が悪い
- などを確認します。



対策や注意

呼吸困難を起こしたときや、眠れていないときは、受診しましょう。お風呂に入ったり部屋を加湿したり、口元に蒸しタオルを近づけたりして湿った空気を吸い込むことにより痰が出やすくなります。せきが激しい場合は無理に食事を与える必要はないですが、水分はしっかりととらせるようにしましょう。

けいれんが出た

赤ちゃんの様子

- ①けいれんが何分続いているか
(3分以上続いている場合は救急車を呼ぶ準備をします)
- ②どのようなけいれんか
(全身けいれん、片側だけのけいれん、目の向きがおかしいなど)
- ③発熱 ④けいれん後も意識がはっきりしないなどを確認します。



対策や注意

呼吸がしやすいように平らなところに寝かせましょう。けいれんの際に吐いてしまうと、吐いた物で窒息してしまう可能性があります。顔や体を横に向け、吐いた物で気管を詰まらせないように注意してください。

誤飲をした



対策や注意

誤飲したものによって処置の方法が異なるため、119番や中毒110番、医療機関などに連絡して適切な指示を受けましょう。すぐに吐かせようと焦りがちですが、以下の場合には絶対に吐かせてはいけません。

絶対に吐かせてはいけない場合

- ①意識障害がある ②けいれんを起こしている
- ③灯油、ベンジン、マニキュア、除光液、強アルカリ、強酸、洗浄剤、漂白剤、ボタン電池などの誤飲
- ④血を吐いた ⑤とがった物の誤飲 など

乳幼児突然死症候群(SIDS)の予防のために

乳幼児突然死症候群(SIDS:Sudden Infant Death Syndrome)は、それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく、眠っている間に突然死してしまう病気です。

SIDSの原因はまだわかっていませんが、男児、早産児、低出生体重児、冬季、早朝から午前中、うつぶせ寝や両親の喫煙、人工栄養児で多いと言われています。



予防のポイント

- (1)うつぶせ寝は避けましょう。
- (2)たばこはやめましょう。
- (3)できるだけ母乳で育てましょう。